

日本で生まれて百年、  
家庭用編み機の歴史をひも解く展覧会



2023年 2024年  
10月31日(火) — 1月21日(日)  
生活工房ギャラリー

画像① チラシ表面 (デザイン&イラスト: Momoe Narazaki)

本事業に関するお問い合わせ：生活工房 石山（広報）、佐藤  
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 4-1-1 キャロットタワー  
TEL / 03-5432-1543 Email / info@setagaya-ldc.net

## Summary

〴〵母さんは 夜なべをして 手袋編んでくれた

——『かあさんの歌』（作詞・作曲：窪田聡）。1956年7月10日発行の『うたごえ新聞』で発表

完成までに多くの時間がかかる手編みは、手芸のなかでもとくに人の想いがこもるモノとして語られてきました。母親が夜なべした手袋や恋人に贈るマフラーといったイメージは、その典型です。これに対して、戦後に普及した「家庭用編み機」（家庭機）は、誰でも早く簡単に、きれいに編めることが目指されたプロダクトです。

家庭機は、1950年代後半から60年代にかけて流行しました。最盛期には年間100万台が生産されており、花嫁道具としても売り出されています。ミシンと並ぶ定番の家庭用品であり、またニット製品を量産するための仕事道具でもありました。しかし既製服が一般化すると、編み物は「作るもの」から「買うもの」へ、「家事」から「趣味」へとシフトしていきます。やがて家庭機は、徐々にその姿を消していきました。

本展では、各時代の家庭機や編み物、雑誌等の資料を糸口に、この家庭用品を中心に編成された「暮らし」と「編むこと」の関わりを辿ります。あわせて現在も家庭機を使用するニッターの作品も紹介。1923年に萩原まさが考案してはや100年、長らく忘れられてきた家庭用編み機の可能性を再考します。



画像② 家庭用編み機



画像③ 萩原式軽便文化手編器

### （要約）

戦後に流行した家庭用編み機を紹介する展覧会。大正時代の編み機から、各時代の編み物雑誌、現代作家の作品まで、およそ50点の資料を展示します。日本で生まれてはや100年、長らく忘れられてきた家庭用編み機の可能性を再考します。

## Topics

### ◎誕生 100 年！戦前の家庭用編み機から現在のニットまで迎える展覧会

日本における家庭用編み機は、萩原まさという一人の女性が考案し、1923年に誕生しました。会場では、萩原が考案した「萩原式軽便文化手編器<sup>はぎわらしまけいびんぶんかてあみき</sup>」から、現代作家の作品まで紹介。家庭用編み機の歩みを様々な視点から紹介する展覧会です。

### ◎編み機をさわる、かたる。入門のためのイベントも開催

1950年代後半から60年代にかけて流行した家庭用編み機。現在では、あまり馴染みのない家庭用品かもしれません。実際に編み機を体験するプログラムや、専門家を招いたトークイベントを関連イベントとして開催。気軽に編み機の世界に触れることができます。

### ◎家庭用編み機の思い出。寄せられたエピソードを紹介

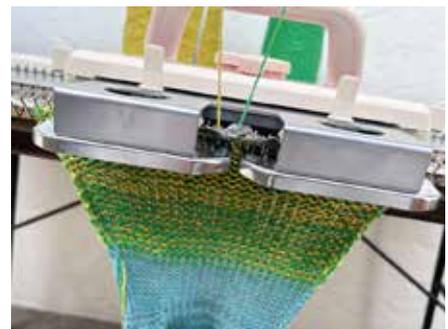
プレイベントとして、家庭用編み機にまつわるエピソードや作品をオンラインで募集しました。世田谷区内外のみなさまから寄せられたエピソードを会場内でご紹介します。

## Events

### ウィークエンド・ニッティング

2023年11月と2024年1月の3日間、家庭機と編み物に触れるイベントを連日開催。会場では毛糸や手編みキットなども販売します。

日程 | 11月17日(金)～19日(日)、2024年1月19日(金)～21日(日)  
会場 | 生活工房ワークショップルーム (キャロットタワー 4階)  
参加費 | 無料 (トークイベントのみ有料)



画像④ 家庭用編み機

#### ●会場ツアー | 展示をまわる、編み機をさわる

展示品や家庭機の解説を聞きながら会場をまわり、実際に編み機で編み物を作ります。ツアー後は家庭機に関する相談も受け付けます。

時間 | ① 11:00～② 14:00～③ 16:00～ 各回 40分程度  
定員 | 各回 8名 (先着)  
申込 | 10月1日(日) 10:00より、生活工房 Webにて  
備考 | 11月19日(日)は① 11:00のみ開催

#### ●ニットスペース | ほったらかし手編み倶楽部

編み物ができるスペースを無料解放します。手編みの道具と毛糸をご持参いただくか、会場で販売している毛糸やキットをご利用ください。なお、家庭機のご用意はありません。

時間 | 10:00～17:00 ※入退場自由  
申込 | 不要、直接会場へ

#### トーク | あみきをほどく 編み機の来し方行く末

家庭用編み機の歴史から現在まで、ゲストがざっくばらんにおしゃべりするトークイベント。私たちの「編み物」に与えた影響を考えます。YouTube「編み物チャンネル」(日本ヴォーグ社)の無料配信もあります。

聞き手 | 横山起也 (編みキノコ作家 / NPO 法人 LIFE KNIT)  
ゲスト | 北川ケイ (彩レース資料室 / 近代日本西洋技芸史研究家)、田沼英治 (Knittingbird)

日時 | 11月19日(日) 15:00～17:00

定員 | 40名 (先着)

参加費 | 500円 (当日現金払い)

申込 | 10月1日(日) 10:00より、生活工房 Webにて



編み物チャンネル

## 出品作家

### 編み物☆堀ノ内（あみもの ほりのうち）

編み物作家／ニットデザイナー。1967年生まれ。桑沢デザイン研究所を卒業後、グラフィックデザイナーに。2012年頃より「編み物☆堀ノ内」名義で編み物作家として活動開始。家庭用編み機を使用してニット作品を制作している。2018年よりMEDICOM TOYとのニットブランド“KNIT GANG COUNCIL”も始動。アーティストやギャラリーとのコラボニットも多く手掛ける。



画像⑤ 編み物☆堀ノ内『ネコのセーター』

### 近あづき（こん あづき）

武蔵野美術大学在学中より編み物技法を用いて立体作品を作り始め、ファッションブランド「YAB-YUM」2010-11AWコレクションにて「pipi-goldfish」名義で作品提供を行う。その後、複数の国内外ブランドから家庭用編み機・手編みでのニット業務を委託され、近年はCM・テレビドラマへの衣装提供、技術指導を行っている。2014年より黄金町AIR参加。黄金町芸術学校編み物教室を主宰している。



画像⑥ pipi-goldfish『ニットグローブ』

### 丹治基浩（たんじ もとひろ）

慶應義塾大学卒業後、イギリスのノッティンガムトレント大学 MA ニットウェアデザイン科を首席で卒業。卒業後、様々なメゾンにニットテキスタイルを提供するAcorn Conceptual Textilesに勤務。2012年に帰国し、ファッションニットブランドMotohiro Tanjiを設立。2015年紅白歌合戦のMISIAの衣装製作、2021年パラリンピック閉会式の舞台美術としてニット製作を担当するなど、多岐に渡り展開している。



画像⑦ 丹治基浩

### 宮田明日鹿（みやた あすか）

1985年愛知県生まれ、三重県拠点。桑沢デザイン研究所卒業。ニット、テキスタイル、改造した家庭用電子編み機、手芸などの技法で作品を制作。自分や他人の記憶を用いて新たな物語を立ち上げ、顧みることなく継承されてきた慣習や風習に疑問を投げかけている。近年では、手芸文化を通して様々なまちの人とコミュニティを形成するプロジェクトを各地で立ち上げている。



画像⑧

宮田明日鹿『町を編む』展示風景（2015）

### LOVE it ONCE MORE（ラヴィットワンスモア）

余剰糸や寄付糸を使用したニットアイテムを展開するアップサイクルブランド。デザイナーはMaro Kuratani。神戸市生まれ、大阪文化服装学院ニットコースを終了後、企業のニットデザイナーを経て独立。2019年に「LOVE it ONCE MORE（ラヴィットワンスモア）」を立ち上げる。ヘッドスカーフにもなるストールは、家庭機も用いたオールハンドメイド。



画像⑨ knitting scarf "Your winter lover"  
© LOVE it ONCE MORE

## Outline

- あみきをほどく (タイトル)  
家庭用編み機の展覧会 (サブタイトル)
- 会 期 2023年10月31日(火)～2024年1月21日(日)  
9:00～21:00 月曜休み(祝日は除く)  
※11月5日(日)は設備点検のため休室  
※12月29日(金)～1月3日(水)は年末年始のため休室
- 会 場 生活工房ギャラリー(三軒茶屋・キャロットタワー3階)  
154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1  
TEL 03-5432-1543 www.setagaya-ldc.net
- 料 金 入場無料
- 交通案内 東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅直結  
東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所そば
- 主 催 公益財団法人せたがや文化財団 生活工房  
協 力 Knittingbird、一般社団法人彩レース資料室  
後 援 世田谷区、世田谷区教育委員会



画像⑩  
『ニットコート』2022年に坂本呉服店で受注販売。(製作:近あづき)



画像⑪ 渋谷(現在の渋谷区渋谷2丁目-17)にあったサンエス編物教場でのひとコマ

「渋谷のサンエス編物教場の看板と一緒に写る母です。職業婦人をめざし、編物教場の新聞広告を見て単身上京した母の青春の一枚です。渋谷駅前の角に毛糸屋さんがあり、朝いちばんで毛糸を買って、教場に通ったそうです。(……)写真のニットは、胴体の部分がオレンジ色で胸のラインが赤だったようです。このニットを着てスキーに行った写真もありました。昭和28年～30年頃だと思います。」

エピソードと画像の提供: 飯塚栄子

## 「あみきをほどく 家庭用編み機の展覧会」 広報用画像の貸し出しについて

広報用の画像をご用意しています。ご希望の際は貸出条件をご確認いただき、下記①～⑨の必要事項を明記のうえ、Eメールにてお申し込みください。

なお、本企画の紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正原稿をお送りください。

また、掲載後、掲載誌、URL等を広報担当宛てにお送りいただきますようお願い申し上げます。

### 【貸出条件】

- ◆画像は本企画紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像データは、ご使用后必ず消去してください。
- ◆画像データを第三者に渡すことを禁じます。

### 【必要事項】

- ① 媒体名（雑誌名／番組名／WEBサイト名ほか）
- ② 媒体種別（新聞／雑誌／フリーペーパー／テレビ／ラジオ／WEBサイトほか）
- ③ 発売・放送・更新予定日
- ④ 御社名
- ⑤ ご担当者名
- ⑥ 御社住所
- ⑦ Eメールアドレス
- ⑧ 電話番号
- ⑨ ご希望の画像番号

生活工房 広報担当 石山 行き  
Email [info@setagaya-ldc.net](mailto:info@setagaya-ldc.net)